

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム ぞう (ユニット1)	評価実施年月日	平成20年 2月10日
評価実施構成員氏名	谷・前田・内田・高木・梶田・阿部		
記録者氏名	谷 純子	記録年月日	平成20年 2月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所の理念のなかに「人のために、社会のために」という表現を入れ、サービスを提供し、GHとしての役割を考えてきた。		法人代表の改選もあり、これまでの理念を見直し、地域での安心した暮らし、地域生活の継続を支えるための理念の構築を心がけたい。
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用の際は必ず理念を伝え、理解してもらえるようにしている。申し送り、施設内研修時には、必ず振り返り、話し合いを行っている		もっと、日々のサービスの提供において、理念が反映されているか見直したい。職員全体に具体的に統一を是非図りたい。
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族や地域の皆様に対して、おりに触れてGHの役割等を伝えている。(訪問時・運営推進会議・見学など)		もっと機会をみつけ増やしたい。
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に散歩や、回覧板を回したりして近隣とはふれあう機会がある。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭り、盆踊り等に入居者とともに積極的に参加している。町内会に加入し廃品回収清掃行事などに参加している。		
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	管理者(法人代表)は実践内容を踏まえ研修、会合に多くかかわり、認知症ケアの啓発に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価の意義や目的を普段から話し合っている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議ではホームからの報告やメンバーから質問・意見などをいただいている。		なかなか、メンバーの都合が整わず、きっちり2ヶ月に1度といかず悩んでいる。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームでの運営やサービスの課題を一緒に解決して行きたいが、積極的な協働関係作りができていない。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員には機会あるごとに説明はおこなっているが、成年後見が必要な入居者は管理者が一人に対応している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	安全対策委員会があり、日々入居者様の安全に心がけている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項は時間をとって説明している。契約の改訂もきちんと根拠を示して納得していただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様・ご家族の言葉や態度から可能な限り思いを理解し、各ユニットにて話し合い職員間共有している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のホーム便り、手紙、写真の送付。個別にメールや電話にて知らせている。ご家族訪問時は、職員は何らかの情報提供の約束になっている。金銭管理についても出納帳にご家族にサインをいただいている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族にはおりにふれて、ご意見などがなく確認している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや個別面談などを行い意見や思いを聞くよう心がけているが、全て把握しきれないと思う。		管理者(法人代表)はこの点を重要と考え、検討を重ねている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	最大限考慮しているつもりだが、もっと柔軟な体制が取れないか意見がでている。		管理者(法人代表)の思っている、入居者本位の体制になるよう検討を重ねたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には、各ユニットの職員を固定している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員に学ぶことを推進し、研修・会議等に参加している。		全職員一律でなく、職員一人ひとりの能力別の学ばせ方を今後考慮したい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者(法人代表)は北海道認知症高齢者GH協議会の役員をしていて、同業者と深くかかわり、スタッフ研修開催、GHのサービスの質の向上に励んでいる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の疲労やストレスなどこころがけて把握しているつもりだが、完全とはいえない状況。		管理者(法人代表)も日々悩みながら良い方向性を探している。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者は運営者だが、現場に来ており、個別職員の業務等を把握している。職員が向上心を持ってくれるように、職能評価をおこなっている。		職員のやりがいなど、向上心をもてるよう具体的にもっと考慮したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	出来る限り、ご本人の思いを受け止めるよう心がけている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族のこれまでの状況をよく聞き、不安などを把握し次の段階へ進んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時点で、早急か否かを判断し適切な対応に心がけている。管理者のネットワークもふるに活用している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来る限りたくさんのご家族に足を運んでいただき、ホームの雰囲気をみていただいている。本人よりご家族の見学が多いのが現状である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「共生」という思いを大切に、また入居者様は人生の先輩と考え、ご本人が力を発揮できる場面づくりにこころがけている。		「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係を定着させたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の様子や、言葉などを心がけてつたえることにより、少しずつ職員ご家族が本人を中心に物事をとらえ、関係が良くなったと思う。		一緒に考えていく人間関係を目指したい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	可能なご家族にはご本人の行事に参加していただいている。なかなか受け入れてもらえないご家族もいる。		ご家族が疎遠になっている状況を具体的に話し合わなければならない。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出かける場面は多く心がけているが、ご本人の今までの生活習慣が継続されているとは言えない。		ご家族への協力要請の方法を考慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の関係が上手くいくように、職員が調整役となって見守っている。特に役割活動などが円滑に行くよう配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、それで終わりという関係づくりは普段から行っていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々かわる中で、会話・表情などから務めて把握するようにしている。意思疎通の難しい方は、ご家族に確認している。		この課題はGHの使命なので継続していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、可能な限りご本人、家族、関係者より聞き取りをおこなっている。入居後もおりにふれ、情報を頂いている。プライバシーの配慮が難しい。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様一人ひとりの生活パターンを見つめ、尊重し全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画にご本人が存在することに心がけ、アセスメントを含め職員全員でモニタリング、カンファレンスを行っている。情報が限られていても、あきらめずご本人を見つめることを目指している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者様の実情に合わせた介護計画に心がけている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人ひとりのファイルを作り、食事量、水分量、排泄、身体管理および、生活状況ご本人の会話等々を記録し、全職員が確認できるようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人、ご家族の状況に通院等は柔軟に対応し、精神的負担をかけないようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の学校の生徒達との接点を見出したり、担当交番にお便りなどを届け、理解を呼びかけている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	包括支援センターの方々にGHの理解を深めていただくために、連携をもっている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	認知症ケアの向上のために啓発事業について、意見を求められる機会が多い。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ご本人や家族が希望する病院を受診している。通院に対してもご家族の負担の軽減に心がけている。入居時に相談している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	開設当初からの協力医院があり、意思疎通が増えて安心できてきた。		
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援をしている。また、介護職員の記録も重要で連携をとるための必要性を職員に伝えている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ここ最近では入院者がいないが、入院した場合は、頻りに職員が出向き、状態を把握し方向性を早くきめている。入院によるダメージは職員もよく理解している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化をふまえ、家族と意思確認の話し合いや、会話がなくなった。場合に応じては医師や関係者と話す機会を設けている。		医療連携と共に当ホームが強化しなければならない課題である。少しずつ、具体的に話し合っていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルケアに向かいたい思いはあるが、現状は当ホームがギリギリ可能な場合までである。ご家族の要望も強い。		重度化、ターミナルを向かえる入居者様に対して、安心・安全の確保、また職員の思い、家族の思いを真摯に話し合っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所などに移られる場合は、アセスメント、介護計画、ご家族が同意して下さる情報はすべて提供している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>人前でご本人が恥ずかしい思いになるような、介護・声かけをしないよう心がけている。が、ときおり配慮が足りない場合も見受けられる。</p>		<p>「尊厳」について、いま以上に職員教育をするべきである。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員が決定するのではなく、一人ひとり可能な限り選択肢を揃えご本人が決定できる機会を作っている。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的なホームの流れはあるも、本人の生活パターンや体調に合わせた支援を行っている。 買物・散歩などそれぞれ違う。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人主体で整えられるよう、職員が場面設定している。決定困難な方は職員が考え配慮している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事という行為を入居者様それぞれの状態・能力に合わせた意義あるものにしたいと職員の統一を図っている。配膳は出来なくても、下膳はしていただく。調理は出来なくても、メニュー作成には参加。等々。</p>		<p>「食べる」ということをホームでは大切なこととして捉えているので、いま以上に考慮していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は入居者様一人ひとりの好き嫌いをよく把握しており、配慮している。		「食べる」ということをホームでは大切なこととして捉えているので、いま以上に考慮していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄サインを職員は把握しており、さりげない誘導、さりげない支援に心がけている。排泄チェック表を使用し、一人ひとりのパターンを把握し可能な限りトイレへ誘導している。オムツ使用の方もそれぞれ合ったものを使用。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴を拒む人もいるが、言葉かけや対応を工夫している。羞恥心・恐怖心は配慮している。週2～3回だが好きなとき、好きな時間とはいえない。		職員の勤務体制を考慮する必要がある。職員の意識の課題もあり。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調や希望を考慮し休んでいただくよう支援している。判断が困難な方は職員が判断している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お願いできそうな仕事は極力行っていただいている。習慣的になっている入居者様は生き生きして見受けられる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の同意を得て、ご自身でお小遣いをもっている人もいる。それぞれの方、預かり金をホームで管理し、買物や外食など行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望や状態に合わせて、散歩、ドライブ等に出かけている。玄関のドアを自分で開けるだけで気分が違う様子。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員が会話の中から聞き取り、可能なものは計画を立て行っている。		長く入居されている方が多いので、もっと力をいれたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自身で居室に電話回線をひかれていた方もいる。ご本人が希望すれば、連絡とれるように職員は理解している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族が気兼ねなく訪問して下さるよう、雰囲気や大切に心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束が身体的・精神的弊害を与えることを良く理解している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は施錠している。入居されている方が外出した場合、止めるのではなく、声をかけたり一緒についていくなど安全面に配慮しながら、可能な限り自由に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と同じ空間で記録やその他の作業をおこなっている。夜間はご本人の状態に合わせて確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員は入居者様の状況をふまえ、全てを管理してしまうのではなく、検討してから対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	安全対策委員会があり、日々入居者様の安全に心がけている。是正報告書、ヒヤリハットなどの記録を定期的集計し、全職員共通認識を図っている。取り組みはGHの職員研修会で事例報告した。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急的なマニュアルの作成を行いカンファ等で確認しているが、全ての職員が対応ができるかは疑問が残る。		応急手当の研修会に職員を参加させ始めているので、今後周知徹底を図って行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回火災避難訓練をおこなっている。防災管理者も選任し、消防署と連携を図っている。		
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	GHは認知症高齢者をただ収容する場所ではないこと、その人らしい生活を求めると一人ひとりにリスクが起こりえるとおりにふれてご家族に説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の状況を職員は把握しており、少しでも変化があれば管理者報告。職員間で共有し状況にあわせ病院受診としている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方の変更があった場合は、全職員が把握するまで申し送られている。また薬剤師に来ていただき、薬の作用、副作用について説明してもらう機会を設けた。しかし、服薬ミスが続き、職員の意識の問題について安全対策委員会を中心に是正に心がけている。		職員間の服薬支援の意識にばらつきがあったことを、素直に話し合い、いま現在緊張しつつ支援にあたっている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	入居者様の生活の全体で、食事、排泄、運動量などを見直し、自然排便を促すよう務めている。下剤使用も、個々の状態に合わせて、医師、看護師に生活状況を報告し薬をむやみにしようしないようにしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの徹底に力を入れている。それぞれの方の能力に応じて職員は誘導し支援している。ご本人に合わせたブラシ等を使用。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量を日々チェックし記録し、職員は情報を共有している。食事・水分が摂りにくくなった方にも、何とか職員はアイデアを出し合いご本人の「食べる」という行為を支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	口腔ケアの徹底により、今年に入居者様風邪症状はありませんでした。ご家族の同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具、台所回り、食器等の清潔・衛生を保つよう、職員で話し合い決めて行っている。また、冷蔵庫や冷凍庫の食材の点検も頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ご家族・入居者様は雰囲気慣れた様子だが、地域の方々が入りやすいとは言えない。		ハード的に無理とは考えずに、建物全体を工夫したいと運営者は考えている。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	可能な限り、配慮しているがもっと入居者様の感覚や価値観を大切にしたいと思う。見学者等からは、家庭的と言われるが、自信が持てず。		ハード的、金銭的に無理とは考えずに、入居者様本位の環境作りに向かいたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共有空間で人の気配を感じながらも、一人で過ごすことができるようにはなっていない。介護者ばかりに頼るのではなくハード面も、緩やかに配慮すべきと思う。		ハード面、金銭面に無理とは考えずに、入居者様のストレス、不安が解消されるよう、考えていく。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご本人の持ち物が少なかったり、ご家族の協力が難しい場合でも、職員は可能な限りご本人らしさを考えている。ご家族の協力を得ることの難しさを感じている状況。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	各居室に温度計を設置したり、冬季間は特に湿度の把握に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		



. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 <del>利用者の2/3くらい</del> 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある <del>数日に1回程度ある</del> たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 <del>利用者の2/3くらい</del> 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 <del>利用者の2/3くらい</del> 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい <del>利用者の1/3くらい</del> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 <del>利用者の2/3くらい</del> 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 <del>利用者の2/3くらい</del> 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 <del>家族の2/3くらい</del> 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ほぼ毎日のように 数日に1回程度 <del>たまに</del> ほとんどない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>大いに増えている  <del>必ず増えている</del>            あまり増えていない            全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が  <del>職員の2/3くらいが</del>  <del>職員の1/3くらいが</del>            ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が  <del>利用者の2/3くらいが</del>  <del>利用者の1/3くらいが</del>            ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が  <del>家族等の2/3くらいが</del>  <del>家族等の1/3くらいが</del>            ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者様ひとり一人それぞれの方の笑顔が見たくて、また少しでもその回数が増えることを願って向き合っています。特に「食事」、「外出」はひとり一人の要望を出来る限り実現しています。「食べる」という行為を大切に食材の仕入れは地域の農家の協力を得たり、入居者様の好みを献立に最大限考慮し、誕生日、気分転換の機会に「外食」を多く取り入れている。誕生日は個人の要望を事前に伺い職員は叶えられるよう努力している。入居者様と、職員の信頼関係は強いと思う。18名入居様中13名が開設当初から一緒に生活している。(H14・8・1開設)

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム ぞう (ユニット2)	評価実施年月日	平成20年 2月20日
評価実施構成員氏名	竹内・梶田・原田・表・佐藤		
記録者氏名	竹内あゆか	記録年月日	平成20年 2月25日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所の理念のなかに「人のために、社会のために」という表現を入れ、サービスを提供しGHとしての役割を考えてきた。		法人代表の改選もあり、これまでの理念を見直し、地域での安心した暮らし、地域生活の継続を支えるための理念の構築に心がけたい。
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員採用の際には必ず理念を伝え、理解してもらえるようにしている。申し送り、施設内研修時には、必ず振り返り、話し合いを行っている。		もっと、日々のサービスの提供において、理念が反映されているか見直したい。職員全体に具体的に統一を図りたい。
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族や地域の皆様に対して、おりに触れてGHの役割等を伝えている。(訪問時・運営推進会議・見学など)		もっと、機会を見つけ増やしたい。
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常的に散歩や、回覧板を回したりして近隣とはふれあう機会がある。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭り、盆踊り等に入居者とともに積極的に参加している。町内会に加入し廃品回収、清掃行事などに参加している。		
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	管理者(法人代表)は実践内容を踏まえ研修、会合に多くかかわり、認知症ケアの啓発に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービス評価の意義や目的を普段から話し合っている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議ではホームからの報告やメンバーから質問・意見などをいただいている。		なかなか、メンバーの都合が合わず、きっちり2ヶ月に1度といかず悩んでいる。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームの運営やサービスの課題と一緒に解決して行きたいが、積極的な協働関係作りができていない。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員には機会があるごとに説明は行っているが、成年後見が必要な入居者は管理者が一人で対応している。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	安全対策委員会があり、日々入居者様の安全に心がけている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項は時間をとって説明している。契約の改訂もきちんと根拠を示して納得していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様・ご家族の言葉や態度から可能な限り思いを理解し、各ユニットにて話し合い職員間共有している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のホーム便り、手紙、写真の送付。個別にメールや電話にて知らせている。ご家族訪問時は、職員は何らかの情報を提供する約束になっている。金銭管理についても出納帳にご家族のサインをいただいている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族にはおりにふれて、ご意見などないか確認している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや個別面談などを行い意見や思いを聞くよう心がけているが、全て把握しきれないように思う。		管理者(法人代表)はこの点重要と考え、検討を重ねている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	最大限考慮しているつもりだが、もっと柔軟な体制が取れないか意見がでている。		管理者(法人代表)の思っている、入居者本位の体制になるよう検討を重ねたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には、各ユニットの職員を固定している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	全職員に学ぶことを推進し、研修・会議等に参加している。		全職員一律でなく、職員一人ひとりの能力別の学ばせ方を今後考慮したい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者(法人代表)は北海道認知症高齢者GHの役員していて、同業者と深くかわり、スタッフ研修開催、GHのサービスの質の向上に励んでいる。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の疲労やストレスなどこころがけて把握しているつもりだが、完全とはいえない。		管理者(法人代表)も日々悩みながら良い方向性を探している。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者は運営者だが、現場に来ており、個別職員の業務等を把握しているが、職員が向上心を持ってくれるように、職能評価を行っている。		職員のやりがいなど、向上心をもてるよう具体的にもっと考慮したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	出来る限り、ご本人の思いをうけとめるよう心がけている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族のこれまでの状況をよく聞き、不安などを把握し次の段階へ進んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時点で、早急か否かを判断し適切な対応に心がけている。管理者のネットワークもふるに活用している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	出来る限り、たくさんのご家族に足を運んでいただき、ホームの雰囲気をみていただいている。本人よりご家族の見学が多いのが現状である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「共生」という思いを大切に、また入居者様は人生の先輩と考え、ご本人が力を発揮できる場面づくりにこころがけている。		「一緒に過ごし、学び、支えあう」関係を定着させたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の様子や、言葉などを心がけて伝えることにより、少しずつ職員に職員ご家族が本人を中心に物事をとらえ、関係が良くなったと思う。		一緒に考えて行く人間関係を目指したい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	可能なご家族にはご本人の行事に参加していただいている。なかなか受け入れてもらえないご家族もいる。		ご家族が疎遠なっている状況を具体的に話し合わなければならない。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	出かける場面は多く心がけているが、ご本人の今までの生活習慣が継続されているとは言えない。		ご家族への協力要請を考慮していきたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士の関係が上手くいくように、職員が調整役となって見守っている。特に役割活動などが円滑に行くよう配慮している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても、それで終わりという関係づくりは普段から行っていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々かかわる中で、会話・表情などから務めて把握するようにしている。意思疎通の難しい方はご家族に確認している。		この課題はGHの使命なので継続していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、可能な限りご本人、家族、関係者より聞き取りを行っている。入居後もおりにふれ、情報をいただいている。プライバシーの配慮が難しい。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者様一人ひとりの生活パターンを見つめ、尊重し全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画にご本人が存在することに心がけ、アセスメントを含め職員全員でモニタリング、カンファレンスをおこなっている。情報が限られていても、あきらめずご本人を見つめることを目指している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入居者様の実情に合わせた介護計画に心がけている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様一人ひとりのファイルを作り、食事量、水分量、排泄、身体管理および、生活状況、ご本人の会話等を記録し、全職員が確認できるようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご本人、ご家族の状況に通院等は柔軟に対応し、精神的負担をかけないようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の学校の生徒たちとの接点を見出したり、担当交番にお便りなどを届け、理解を呼びかけている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	包括支援センターの方々にGHの理解を深めていただくために、連携をもっている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	認知症ケアの向上のために啓発事業について、意見を求められる機会が多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ご本人や家族が希望する病院を受診している。通院に対してもご家族の負担の軽減に心がけている。入居時に相談している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	開設当初からの協力医院があり、意思疎通が増えて安心できてきた。		
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、健康管理や状態変化に応じた支援をしている。また介護職員の記録も重要で連携をとるための必要性を職員に伝えている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ここ最近では入院者がいないが、入院した場合は、頻りに職員が出向き、状態を把握し方向性を早く決めている。入院によるダメージは職員もよく理解している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化をふまえ、家族と意思確認話し合いや、会話がなくなった。場合に応じては医師や関係者と話す機会を設けている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルケアに向いたい思いはあるが、現状は当ホームが対応可能なギリギリな場面まで話し合いで決めている。ご家族の要望も強い。		重度化、ターミナルを向かえる入居者様に対して、安心・安全の確保、また職員の思い、ご家族の思いを真摯に話し合っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他事業所などに移られる場合は、アセスメント、介護計画、ご家族が同意して下さる情報はすべて提供している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	人前でご本人が恥ずかしい思いになるような、介護・声かけをしないよう心がけている。が、ときおり配慮が足りない場合も見受けられる。		「尊厳」について、いま以上に職員教育をするべきである。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員が決定するのではなく、一人ひとり可能な限り選択肢を揃えご本人が決定できる機会を作っている。「自分らしさ」を大切にしている入居者様が多いユニットなので、職員は会話を大切にしている。		
52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的なホームの流れはあるも、ご本人の生活パターンや体調に合わせた支援を行っている。散歩・買物などそれぞれ違う。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご本人主体で整えられるよう、職員が場面設定している。決定困難な方は考え配慮している。		
54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事という行為を入居者様それぞれの状態・能力に合わせた意義あるものにしたと職員の統一を図っている。配膳は出来なくても、下膳はしていただく。調理はできなくても、メニュー作成に参加。等々。		「食べる」ということをホームでは大切なこととして捉えているので、いま以上に考慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	職員は入居者様一人ひとりの好き嫌いをよく把握しており、配慮している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄サインを職員は把握しており、さりげない誘導、さりげない支援に心がけている。排泄チェック表を使用し一人ひとりのパターンを把握し可能な限りトイレへ誘導している。オムツ使用の方もそれぞれ合ったものを使用。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居を拒む人もいるが、言葉かけや対応を工夫している。羞恥心・恐怖心は配慮している。週2～3回だが好きなとき、好きな時間とはいえない。ユニットとしては、一日中湯をはり、時間はご本人に決めていただいている。		職員の勤務体制を考慮する必要がある。職員の意識の課題もある。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの体調や希望を考慮し休んでいただくよう支援している。困難な方は職員が判断している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	お願いできそうな仕事は極力行っていただいている。習慣的になっている入居者様は生き生きして見受けられる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の同意を得て、ご自身でお小遣いを持っている人もいる。それぞれの方、預かり金をホームで管理し、買物や外食など行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご本人の希望や状態に合わせて、散歩、ドライブ等に出かけている。 玄関のドアを自分で開けるだけで気分が違う様子。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員が会話の中から聞き取り、可能なものは計画を立て行っている。		長く入居されている方が多いので、もっと力をいれたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自身で居室に電話回線をひかれていたもいる。 ご本人が希望すれば連絡とれるよう職員は理解している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族が気兼ねなく訪問して下さるよう、雰囲気を大切に心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束が身体的・精神的弊害をあたえることを良く理解している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は施錠している。 入居されている方が外出した場合、止めるのではなく、声をかけたり一緒についていくなど安全面に配慮しながら、可能な限り自由に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者と同じ空間で記録やその他の作業をおこなっている。夜間はご本人の状態に合わせて確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員は入居者様の状況をふまえ、全てを管理してしまうのではなく、検討してから対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	安全対策委員会があり、日々入居者様の安全に心がけている。是正報告書、ヒヤリハットなどの記録を定期的集計し、全職員共通認識を図っている。取り組みはGHの職員研修会で事例報告した。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急的なマニュアルの作成を行いカンファ等で確認しているが、全ての職員が対応ができるかは疑問が残る。		応急手当の研修会に職員を参加させ始めているので、今後周知徹底を図って行きたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、年2回火災避難訓練をおこなっている。防災管理者も選任し、消防署と連携を図っている。		
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	GHは認知症高齢者をただ収容する場所ではないこと、その人らしい生活を求めると一人ひとりにリスクが起こり得ると、おりにふれてご家族に説明している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の状況を職員は把握しており、少しでも変化があれば管理者報告。職員間で共有し状況にあわせ病院受診している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方に変更になった場合は、全職員が把握するまで申し送られている。また、薬剤師に来ていただき、薬の作用、副作用について説明してもらう機会を設けた。しかし、投薬ミスが続き、職員の意識の問題について安全対策委員会を中心に是正に心がけている。		職員間の服薬支援の意識にばらつきがあったことを、素直に話し合い、今現在緊張しつつ支援にあたっている。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	入居者様の生活の全体で、食事、排泄、運動量などを見直し、自然排便を促すよう務めている。下剤使用も、個々の状態に合わせ、医師、看護師に生活状況を報告し薬をむやみに使用しないようにしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアの徹底に力を入れている。それぞれの方の能力に応じて職員は誘導し支援している。ご本人に合わせたブラシ等を使用。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分の摂取量を日々チェックし記録し、職員は情報を共有している。食事・水分が取りにくくなった方にも、何とか職員はアイデアを出し合いご本人の「食べる」という行為を支援している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	口腔ケアの徹底により、今年は入居者様風邪症状はありませんでした。ご家族の同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	調理器具、台所回り、食器等の清潔・衛生を保つよう、職員で話し合い、決めて行っている。また、冷蔵庫や冷凍庫の食材の点検も頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	ご家族・入居者様は雰囲気慣れたご様子だが、地域の方々が入りやすいとは言えない。		ハード的に無理とは考えずに建物全体を工夫したいと運営者は考えている。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	可能な限り配慮しているが、もっと入居者様の感覚や価値観を大切にしたいと思う。見学者等からは、家庭的と言われるが、自信が持てず。		ハード的、金銭的に無理とは考えずに、入居者様本位の環境作りに向かいたい。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共有空間で人の気配を感じながら、一人で過ごすことができるようにはなっていない。介護者ばかりに頼るのではなくハード面も、穏やかに配慮すべきと思う。		ハード面、金銭面に無理とは考えずに、入居者様のストレス、不安が解消されるよう考えていく。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	ご本人の持ち物が少なかったり、ご家族の協力が難しい場合でも、職員は可能な限りご本人らしさを考えている。ご家族の協力を得ることの難しさを感じている状況。このユニットはご本人の思いの家具が揃っている。		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないように換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	各居室に温度計を設置したり、冬季間は特に湿度の把握に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者様の状態に合わせて、住居環境が、安全で自立へ向いているか見直ししながら配慮している。危険であっては困るが、入居者様の行動が広がる環境づくりにしたい。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者様が混乱しにくいように、紛らわしいと思うものは配置していないが、それを重んじると優しさや、温かみがないように感じる。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏はホームの周りをプランターに花を植え、植える作業から、水掛、片付けまで、能力に応じてそれぞれの方が関わっている。冬はある入居者様と職員が除雪してくれた。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3くらい</del>            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3くらい</del>            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2 / 3くらい            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3くらい</del>            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3くらい</del>            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3くらい</del>            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3くらい</del>            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3くらい</del>            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2 / 3くらい</del>            利用者の1 / 3くらい            ほとんど掴んでいない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている</p> <p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

入居者様ひとり一人それぞれの方の笑顔が見たくて、また少しでもその回数が増えることを願って向き合っています。特に「食事」、「外出」はひとり一人の要望を出来る限り実現しています。「食べる」という行為を大切に、食材の仕入れは地域の農家の協力を得たり、入居者様の好みを献立に最大限考慮し、誕生日、気分転換の機会に「外食」を多く取り入れている。誕生日は個人の要望を事前に伺い職員は叶えられるよう努力している。入居者様と職員の信頼関係は強いと思う。18名入居者様中13名が開設当初から一緒に生活している。(H14・8・1開設)